

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう」 教材名「想像力のスイッチを入れよう」

2 単元の目標

事例と意見との関係を捉え、原因と結果など情報と情報との関係を理解できる。本文の事例と意見を関係付けて読み、情報の受け取り方について自分の考えをまとめられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事例と意見との関係を捉え、原因と結果など情報と情報との関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、本文の事例と意見を関係付けて読み、情報の受け取り方について自分の考えをまとめている。（C(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

事例の紹介と書き手の意見を区別し、情報を受け取る時にどんな判断を保留し、何を確かめるかを考える。情報に気を付けようという標語で終わらず、本文の事例が意見のどこの根拠となるかを説明する。学習指導要領のC(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(2)アを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について

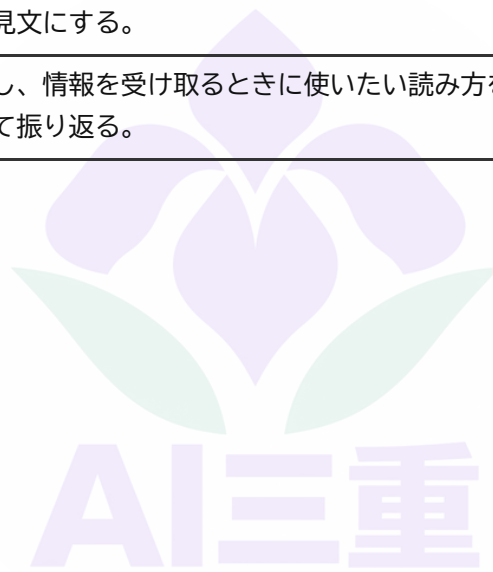
(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

ノートを「本文に書かれている事実」「書き手が述べる考え」「自分の経験・考え」に分ける。自分の経験が出ない児童には、身近な案内や写真の説明を教師が作り、そこから確かめられることと確かめられないことを分けさせる。おおむね満足できる状況は、本文の事例と意見を関係付けて読み、情報の受け取り方について自分の考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、情報を受け取るときの自分の習慣と、初めて気付いたことを記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○段落ごとに事例と書き手の意見を分け、どの事例がどの意見を支えているか矢印で結ぶ。	知①（語句や内容の整理）
	3	○事例から分かることと、その事例だけでは決められないことを分ける。	学習状況を見て支援する。
	4 （本時）	○書き手の意見への自分の考えを、本文の事例と経験を区別して書き、読み合う。	思①（発言・学習記録）
	5	○友達の問題を受け、理由が不足する部分や言い切りすぎた表現を直して意見文にする。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○意見文を交流し、情報を受け取るときに使いたい読み方を本文と結び付けて振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (4/6)

(1) 本時の目標

本文の事例と意見を関係付けて読み、情報の受け取り方について自分の考えをまとめられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「書き手の意見に納得したのは、どの事例の、どんなところからですか。納得しきれないところには、どんな情報が必要ですか」 【めあて】事例の紹介と書き手の意見を区別し、情報を受け取るときにどんな判断を保留し、何を確かめるかを考える。 〈予想される児童の反応〉 ・ 事例だけでは判断できないところがある。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「書き手の意見に納得したのは、どの事例の、どんなところからですか。納得しきれないところには、どんな情報が必要ですか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 事例だけでは判断できないところがある。 ・ 自分が知っていることを当てはめて決めつけていた。 ・ 書き手の意見には賛成だが、実行するには確認する方法も考えたい。	ノートを「本文に書かれている事実」「書き手が述べる考え」「自分の経験・考え」に分ける。自分の経験が出ない児童には、身近な案内や写真の説明を教師が作り、そこから確かめられることと確かめられないことを分けさせる。 想定する難しさ：本文にある事例をそのまま自分の経験として書く、書き手の意見を写して自分の考えとする、情報はすべて疑えばよいという極端な結論にする。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 本文の事例と意見を関係付けて読み、情報の受け取り方について自分の考えをまとめている。(発言と学習記録)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 書き手の意見には賛成だが、実行するには確認する方法も考えたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。 次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「書き手の意見に納得したのは、どの事例の、どんなところからですか。納得しきれないところには、どんな情報が必要ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ



AI三重